

<b>Title</b>	祝卒業・新入生歓迎号
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合図書館
<b>Citation</b>	ぱびるす, 48 号, 2009.3, 1-6
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=880">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=880</a>
<b>Rights</b>	

※2p の記事一件、著者依頼により本文を削除



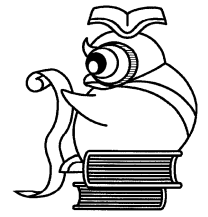
聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE



第48号 (2009年春)

祝卒業・  
新生歓迎号



## 図書館あれこれ

鶴沼 裕子

長年、書物と縁の深い生活をしてきて瞠目させられるのは、情報収集機能の変貌ぶりである。

私が学生であった約半世紀前は、コピー機能さえほとんど無いに等しかった。借りたノートも手書きで写すので、“真面目”な女子学生のノートは試験期になると人から人へと泳いでいってしまい、肝腎の持ち主が試験を受けられなかった、という笑えない思い出もある。本の入手自体がなかなか困難であったので、大学院生時代に研究資料を求めて京都の同志社大学に行き（まだ新幹線もなかったころの話である）、1頁ずつ写真を撮り、現像したものを辛うじて判読したこともあった。

一足飛びに聖学院時代の話になるが、大学創立から数年後のこと、蔵書検索方式を、カードから徐々にPCに移行しようという話が初めて教授会に出たとき、一老教授が延々と大反対演説をされ、図書委員長として提議した私が立ち往生してしまった場面もあった。かつてカードボックスが占めていたスペースが今は読書の場となり、周囲に置かれたPCを学生たちが自在に操っている光景をみると、まさに隔世の感がある。私自身の最近の経験の一つご披露しよう。他大学の先生方との共同研究の成果を本にすることになり、代表者の先生から、電子媒体で発表したいが、という知らせがあった。書物世代の私は大いに驚いて、それはかまわないが、ぜひ書物にもして下さい、と懇願した。本でないと読んでもらえないだろう、と思ったのである。ところがこの話を図書館でしたところ、「先生、今は書物よりも電子媒体の方がずっとアクセスが多いんです」と聞かされ、図書館長の身でありながら…、と自分の不明を大いに恥じ入ったのであった。

電子化された図書館資料の利用については、「ぱびるす」第47号に河島茂生先生が書いておられるが、インターネットをいかに使いこなして情報を

集めるかが、よい研究成果をあげる重要な鍵となる時代である。学生の皆さんは、瞬時に得られる膨大な情報を駆使し、そこで浮いた時間や労力を勉学に振り向けて、よい研究成果につなげてほしいと切に願っている。

こうした推移をみると、重くて場所をとる書物などというものは、いずれ不要になる時が来るのではないか、という気がしてくる。ところが最近、情報技術の最先端で仕事をしておられる方々の中に、いわゆる古版本や初版本、古書などに関心を寄せる方が意外に多い、ということに気がついた。現在、私のもとで博士論文を作成中のKさんは、全国の大学図書館の中でも有数の最先端設備で知られるK大学図書館の司書をしており、情報学関係の研究で修士号を取得された方だが、一方でヨーロッパの印刷技術の黎明期に並々ならぬ関心を抱いており、16世紀の印刷業者・出版者として名を残しているC. プランタンという人物の記念館を、同好の士たちとベルギーのアントワープに訪ねたりするほどの熱の入れようである。

私自身はどちらかと言えば、特に専門分野に関しては、「本は内容がわかればよい」と考える方なのだが、子どものころや青春時代に手にした本にはやはり特別な思い入れがある。私の書棚の片隅には、昭和初期に出版された、ボロボロの分厚い『グリム童話集』や、「キンダー・ブック」、「講談社の絵本」、敗戦直後の少女雑誌や少女小説の復刻本などがそっと置いてある。また大学図書館4F閲覧室の一隅には、(多くは復刻本であるが)夏目漱石、芥川龍之介、堀辰雄などの著作の古い版が置かれていて、その感触は私を、それらを初めて手にした若い日へといざなってくれる。

そもそも本誌の題名「ぱびるす」とは、古代エジプトで文書を記すために草から作られた紙のことである。実に図書館は、時空を超えた世界へと人々を運んでくれる「魔法の建物」と言うべきではなかろうか。

(図書館長 アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科 教授)

## 癒しの場としての図書館

丸山 久美子

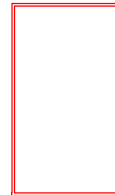
大学を評価する目安は、図書館の規模・設備・蔵書の数・開設状況・貴重書・特色のある蔵書の所有などで、その大学を評価するために訪れた人は先ずはじめに図書館を視察する。時間に余裕のある場合は、(何時間でも様々な本と出合うために)図書館中を散策していれば、思いがけない本とめぐり合うことも出来るが、あらかじめその図書館にどんな特別な蔵書があるかを知っておくことも大切である。特殊な貴重書を蔵書として保存している図書館では、その書が世界的に有名になれば、多くの外国人がその書を見るために入場料を払ってまで遠路はるばる訪れる場合もある。

1999年の秋にアイルランド国立大学ダブリン校へ客員研究員として訪れた時に、「ケルズの書」で名高いダブリン大学(トリニティ・カレッジ)の図書館を訪れたことがある。1200年前につくられたと言われる「ケルズの書」はこの図書館の最大規模を誇る蔵書のうちでも、最も有名な本であり、世界で最も美しい本であるといわれるので、読むためではなく、見るために多くの人を訪れる。私もその一人であったが、「ケルズの書」を一目見るために長蛇の列の後ろに並んだ時には、その物々しい厳戒態勢に驚いたものである。「ケルズの書」は西欧最高のラテン語で書かれた写本であり、アイルランドの国宝と言うより「世界の国宝」と呼ばれている。防護ケースに収まった美しい写本を見ていると悠久の時を超えて、修道士たちが熱心にイエス・キリストの生涯を綴っている風景が蘇ってくる。

ところで、聖学院大学の蔵書の中で特色ある書物は聖書の歴史がはっきりと理解される数々の古い聖書で、図書館長室の貴重書棚に保管されている。たとえば、「摩太福音書(復刻)」や印刷技術を発明したドイツ人グーテンベルグが刊行した最初の活字印刷の聖書「グーテンベルグ聖書(ドイツのマインツにあるグーテンベルグ・ミュージアム所蔵の複製版)」、マルチン・ルターが始めてドイツ語に翻訳した聖書「ルター訳聖書(復刻)」など珍しい聖書が陳列されている。さらに本学図書館の特徴はドイツのヴェルツブルグ大学の故ゴットホルト・ミュラー教授(組織神学)の蔵書1

万4千冊からなるミューラー文庫である。この蔵書は単なる神学書だけではなく文学・哲学・歴史などの書物が、ミュラー先生によって深く読み込まれたあとが歴然と残る生々しきで、陳列されている。これらの蔵書を眺めていると、重厚な学問の息吹が伝わり、人間の英知がいかんにして培われてゆくのかを知ることができる。図書館とはこのように時の流れを忘れさせ、優雅な心を取り戻してくれる最高の癒しの場でもある。

(人間福祉学科 教授)



## ライブラリー・アシスタントから、 みなさんへメッセージ

105P047 小嶋 大隆

私は入学と同時にライブラリー・アシスタントとして図書館で働く事になり、いつのまにか4年間続けていました。4年間図書館で働くと、この図書館がどんなに学生生活の役に立っているかというのを身にしみて感じます。

図書館の中は、にぎわう憩いの場とは違い、静かでとても勉強しやすい環境となっていて、試験期間には最後の追い込みをする学生にとって理想的な場所と言えるでしょう。さらには膨大な資料はもちろんパソコンや印刷機があることにより、レポートのシーズンになればたくさんの学生が図書館で資料集め、パソコンと印刷機を使いレポートを作成している姿を見ます。私も図書館での勉強とレポート作成がどんなに効率がいいかすでに体験済みです。

他にもただ勉強するためだけに図書館に行くのではなく、視聴覚コーナーでは映画を借りる事ができるので、空き時間にブースを借りて映画を見る学生が多いです。私自身も授業が休講になったりしたときには、図書館で映画を見て過ごしていました。変則的な大学の時間割の中で、次の授業まで何時間も空きがある場合は何もしないで時間を過ごすより、図書館で映画を見て過ごしてはいいかがでしょうか。

秋学期後半になると、スーツを来た学生を図書館で見ることがありますが、彼らは就職活動中の学生たちです。彼らが何をしているかと言うと、パソコンで求人を見て説明会の予約や履歴書を朝から何枚も書き、視聴覚コーナーを利用し就職ガイダンスのビデオを見たりしています。

もうおわかりになると思いますが、図書館とは大学生活を過ごす中で、切っても切り離せない場所です。新生も在校生も積極的に図書館を利用しましょう。職員やライブラリー・アシスタントが皆さんの力になり、充実した大学生生活を送れるはずですよ。

(政治経済学科 4年)

## 出会い

106J088 成田 義樹

私にとって本とは何だろう。そう考えて部屋を眺めていると、様々な本が目に入ってくる。古典作品があれば現代のエッセイもある、近代作家もいるし宗教哲学の本もある。部屋を眺めてみるだけでも、自分が多くの本に囲まれて生活をしていることがわかる。ためしに鞆の中を覗いてみたら、三冊の単行本が入っていた。通学中に読もうと思って入れておいたものだ。片道四十分の電車の中、三冊もの本をどうやって読む気だったのだろうかと思うと、我ながら呆れてしまう。それでも私はまた大量の本を抱えながら、学校に通うのだろう。私にとって本とはそういうものだ。本には思わず声を出して笑ってしまうものがある。頭を殴られたような衝撃を受けるものがある。誰かに伝えたくなるほど感動するものがある。本を開くたび、ページをめくるたびに多くの《出会い》が待っている。たとえ同じ本でも、読むたびに新鮮な《出会い》がある。落ち込んだときに読んだり、新しい知識を得た後に読んだりすると同じ本だったはずなのに、その本は違った表情をしている。本はいつでも私と何かを出会わせてくれる。

そして、そんな本と私の《出会い》の場をつくってくれているのが、図書館だった。

今、私は図書館で働く人、つまり図書館司書の資格を取るための授業を受けている。その授業の中で忘れられない言葉があった。それは、「司書の仕事とは本と人をつなぐ懸け橋になることです。」というものだ。この言葉を聞いたとき、司書の仕事はなんてやりがいのある仕事なんだと本気で思った。そして、司書が本と人をつなぐ懸け橋であると同時に、図書館というものの自体も本と人をつなぐ懸け橋なのだと思う。それを言い換えるとやはり《出会い》になるのではないか。図書館には四年間あっても読みきれないほどの本が置いてある。だからこそ、図書館や司書という懸け橋を通してつながった、本との《出会い》ひとつひとつを大切にしていってほしい。

(日本文化学科 3年)

# 新導入データベース「官報情報検索サービス」 2008年度導入

## 「官報情報検索サービス」とは…

「官報」に掲載された記事を検索し、本文を読むことができるデータベース。昭和22年5月3日から当日分までを収録しています。

検索方法は、日付検索と記事検索があり、日付やキーワードから簡単に記事を探せます。

## 「官報」って？

法令や条約、法令に基づいて掲載される告示、広告、国会事項、官庁報告、叙位・叙勲などの情報を掲載する国の機関紙。独立行政法人国立印刷局が編集し、日刊（土日・祝日・年末年始は休刊）で発行しています。国が知らせたいこと、知らせなくてはいけないことが「官報」には掲載されています。

## どうやって使うの？

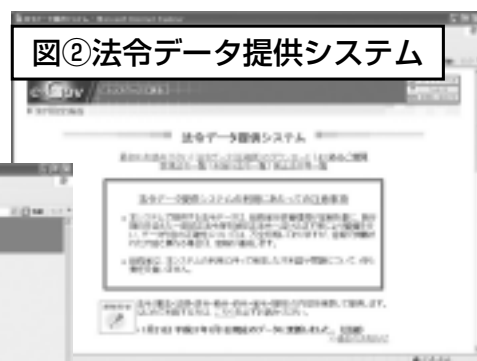
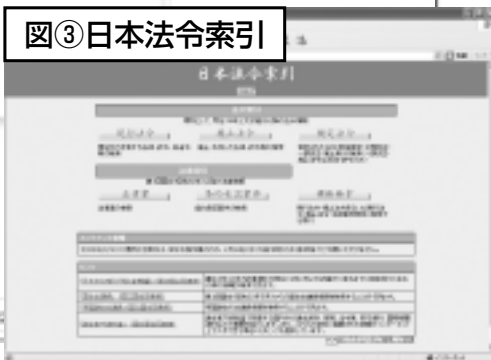
図書館職員による代行検索を行っています。図書館のカウンターで調べたい法令や記事、キーワードなどを申し出れば、職員が検索した結果を提供します。



## 法令や条約を調べるなら…

法令（現行法令・廃止法令・法律案）や条約の沿革、審議経過を調べるなら「日本法令索引」（国立国会図書館提供）〔図③〕、現行法令の本文は「法令データ提供システム」（総務省提供）〔図②〕がおすすめ。

どちらも本学図書館のホームページから利用できます。聖学院大学総合図書館 HP→データベース INDEX はこちら→データベース INDEX〔図①〕→法律・判例を探す



## 「医中誌Web」

2009年度導入予定

国内医学論文情報データベース「医学中央雑誌」のインターネット版。約5,000誌から収録された約600万件の論文情報を収録。学内のPCから利用可能。本学図書館HPからアクセスできます！人間福祉学部の方に特にお勧めのデータベースです。使い方の詳細は図書館ハンドブックまたはカウンターまで。

## 大学図書館って part 2 どんなところ?? ~ 1階編 ~

今回は図書館の玄関である1階をご紹介します。

### 入館ゲート

入り口のゲートに学生証をsuicaのようにタッチしてください。新しい世界への第一歩を踏み出しましょう！ただし無理やりゲートをこじ開けたり、友達の学生証で入るのはルール違反です！

### カウンター

せっかく図書館を利用するので、図書館員をつかわない手はありません！困ったことがありましたら遠慮なく私たちにご相談ください。貸出・返却はこちらで受け付けます。

### 参考図書

辞書、事典、年鑑、白書など、調べ物の第一歩となる参考図書があります。インターネットを開く前に、まず参考図書を開いてみましょう。

### 文庫本・新書

携帯もいいけれど、たまには電車で読書はいかがですか？持ち運びしやすい文庫本や岩波新書がおすすめです。岩波新書は発行順に並んでいます。

### 新着図書

新しく図書館に入った本がみなさんを出迎えます。話題のアノ本が見つかるかもしれません！

### 展示コーナー

源氏物語、三国志など、そのときに話題となっているテーマの資料を、展示ケースと1階通路に展示しています。時空を超えてやってきた世界に想いを馳せてみませんか？

### デスクトップPC/プリンター

館内のデスクトップ40台のうち、20台は1階にあります。プリンターも3台あり、ネット検索やレポートの作成に最適なフロアです。

### コピーコーナー

このたび、念願のカラーコピー機が図書館に登場しました。せっかく作る資料です、きれいにかっこよくしたいですね。白黒10円、カラー50円。

### マイクロ資料室

マイクロ資料の利用ができます。利用の際はカウンターにお声がけください。

## 2008年度図書館の主な動き

### 法人内3つの図書館で相互協力体制スタート

大学・聖学院中高・女子聖学院中高の3館で蔵書検索を共同構築しました。検索対象を「全て」にすると3館の資料が同時に検索できます。また資料の取り寄せ、貸出もできます。

### 学術情報発信システム「SERVE」構築

本学の研究・教育活動成果を電子的に収集・保存し公開するシステム「SERVE（サーブ）」が構築・公開されました。

### 「図書館と県民のつどい埼玉2008」へ参加

埼玉県立図書館主催「図書館と県民のつどい埼玉2008」(11月1日・浦和コミュニティセンター)に他の5機関と参加。本学は「BIBLE 和訳聖書の歴史」「ひらめきときめき図書館探し」を展示。

### レファレンス・カウンターを充実

皆さんの質問・相談により対応するために、レファレンス・カウンターを充実させ、1階カウンター担当者を3名に増員しました。

### 2階閲覧室の椅子を新しく

2階閲覧室の椅子を一新しました。閲覧室の雰囲気が変わりました。

### 展示コーナーの拡大

展示ケースから1階の通路へとコーナーが拡大。直接手にとれる資料が並んでいます。この資料は貸出も可能です。あわせてパンフレットもどうぞ。

図書館司書課長の市来陽子さんが、11月13日に逝去されました。最後まで図書館の運営、改善に尽くされました。

## 図書館の設備

(2009年1月31日現在)

### I 閲覧室

閲覧座席数	315席	利用者用プリンタ	4台
デスクトップPC	40台	複写機	2台
ノートPC	20台	マイクロリーダー	1台
視聴覚ブース	17席		

### II 視聴覚機器

テレビ	10台	DVD プレーヤー	5台
テレビデオ	7台	LD プレーヤー	2台
ビデオプレーヤー	1台	CD プレーヤー	1台
DVD・ビデオプレーヤー	3台	カセットプレーヤー	12台

# 2008年図書館の統計

(2009年1月31日現在)

## I 図書館の推移

	学生数 人	蔵書数 冊	年間受入冊数 冊	開館日数 日	貸出冊数 千冊	図書費 千円
2008	2,827	277,506	6,570	280	17.6	30,583
2007	2,875	273,877	8,148	276	17.9	32,267
2006	2,969	264,673	7,869	276	19.5	32,345
2005	2,968	254,921	6,878	232	18.4	29,700
2004	2,938	247,250	8,287	275	17.5	30,400
2003	2,929	242,368	6,220	275	17.6	30,344
2002	2,931	235,745	6,223	271	18.4	33,805
2000	2,549	219,368	6,769	274	18	35,805
1995	2,137	163,506	13,438	271	21.5	39,700
1990	1,769	96,752	8,195	280	11.8	22,650
1985	1,005	51,000	5,043	284	10.1	12,399
1980	877	36,000	2,599	236	6.8	7,588
1975	763	22,000	4,265	183	3.5	3,754
1970	440	14,000	1,296	239	2.1	1,340
1968	256	10,000	2,838	[247]	[1.4]	[1380]
1967	125	7,000		[247]	[1.4]	[1380]

規程の変更に伴い、1999年以降は消耗品図書も含めた冊数とした。

## II 蔵書冊数

	和書	洋書	合計
総記	10,297	1,394	11,691
哲学・宗教	20,271	15,846	36,117
歴史・地理	17,452	3,085	20,537
社会科学(含教育学・福祉)	74,006	18,078	92,084
自然科学(含医学)	11,927	1,291	13,218
工学(含家事)	6,816	486	7,302
産業	4,909	456	5,365
芸術(含楽譜)	9,340	878	10,218
語学	10,540	2,862	13,402
文学	40,128	13,355	53,483
その他	9,035	5,054	14,089
合計	214,721	62,785	277,506

## III その他の蔵書資料数

和雑誌(紀要・寄贈含)	453	カセットテープ	1,081
洋雑誌(寄贈含)	113	ビデオ・LD・DVD	2,838
スライド	34	CD	997
マイクロ資料	15,322	CD-ROM	539

## IV 館外貸出冊数(図書・製本雑誌):分類別

(2008年4月1日～2009年1月31日)

学生・院生・履修生のみ

	和書	洋書	合計
総記	623	0	623
哲学・宗教	1,643	43	1,686
歴史・地理	1,154	2	1,156
社会科学(含教育学・福祉)	6,459	24	6,483
自然科学(含医学)	673	1	674
工学(含家事)	306	0	306
産業	234	0	234
芸術(含楽譜)	782	10	792
語学	929	28	957
文学	3,441	55	3,496
その他	1,206	33	1,239
合計	17,450	196	17,646

## V その他(他館との協力等)

(2008年4月1日～2009年1月31日)

資料借用	157 (内、学生・院生 53)	紹介状発行	10 (内、学生 1)
資料貸出	48	紹介状受付	0
複写依頼	835 (内、学生・院生549)	視聴覚コーナー利用	1,633
複写受付	322	館内ノートPC貸出	4,946
		文献検索	38

## VI 館外貸出冊数:学科・学年別

(2008年4月1日～2009年1月31日)

所属・学年	図書(製本含む)	未製本雑誌	CD-ROM	CD	カセット
政治政策 2年	168	1	0	0	0
政治政策 1年	124	1	0	0	0
アメ・ヨ文化 2年	90	3	0	0	0
アメ・ヨ文化 1年	258	3	0	1	0
アメ・ヨ文化 後3年	381	1	0	2	0
アメ・ヨ文化 後2年	116	0	0	0	0
アメ・ヨ文化 後1年	153	0	0	0	0
人間福祉 2年	224	11	0	0	0
人間福祉 1年	155	43	0	0	0
科目等	135	6	0	0	0
大学院生小計	1,804	69	0	3	0
政治経済 4年	442	6	2	2	0
政治経済 3年	785	53	2	2	0
政治経済 2年	539	4	3	7	0
政治経済 1年	486	1	2	11	0
コミュニティ政策 4年	304	3	4	0	0
コミュニティ政策 3年	401	6	3	3	4
コミュニティ政策 2年	237	9	2	4	0
コミュニティ政策 1年	303	6	1	2	0
欧米文化 4年	658	4	0	8	0
欧米文化 3年	763	0	0	25	0
欧米文化 2年	399	1	0	8	0
欧米文化 1年	556	0	1	7	0
日本文化 4年	1,002	17	0	3	0
日本文化 3年	1,302	18	3	16	0
日本文化 2年	1,192	9	2	8	0
日本文化 1年	861	6	0	1	0
児童 4年	727	8	2	0	0
児童 3年	1,500	30	1	4	0
児童 2年	1,393	10	3	4	0
児童 1年	315	0	0	0	0
人間福祉 4年	526	13	1	0	0
人間福祉 3年	540	19	1	0	5
人間福祉 2年	361	2	1	14	0
人間福祉 1年	229	13	0	2	0
科目等	21	0	0	0	0
学部生小計	15,842	238	34	131	9
院生・学生合計	17,646	307	34	134	9

発行・編集 聖学院大学総合図書館  
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号  
電話 048-725-5461 FAX 048-780-1096  
E-mail lib@seigakuin-univ.ac.jp  
URL http://seiglib.seigakuin-univ.ac.jp/